第1学年技術。家庭科学習指導案

平成26年10月10日(金) 5校時 技術室 1年C組(男子20名 女子15名 計35名) 授業者 教諭 柿沢 伸彦

個人の研究テーマ: 教えあい学習を通して、技能の向上を図る方法の工夫はどうあればよいか

1 単元名 製作品の部品加工 (アクリル板の加工)

2 単元の目標

- (1) 材料(プラスチック)の加工を通して、工具の特徴を知り、材料に適した工具・機械の使用方法および加工法を理解する。
- (2) 工具や機械の使用を通して、安全な加工法を知り、工具や機械を正しく取り扱うことができる。
- (3) 材料に適した切断、穴あけ、折り曲げなどができる。
- 3 指導計画(全3時間)
 - ・アクリル板の切断加工・・・・・・2時間(本時1/2時間)
 - ・アクリル板の曲げ、穴あけ加工・・・・1時間
- 4 本時の目標と評価規準 〔学習指導要領との関連〕
 - (1) アクリル板の切断に適した工具を使用し、正しい方法で切断することができる。(生活の技能)
 - (2) アクリル板の切断方法(板厚の半分まで溝をほる、台の角に当てて折る)について理解する。

(生活や技術についての知識理解)

(A材料と加工に関する技術 (2) 材料と加工法 イ 材料に適した加工法、工具や機器の安全使用)

- 5 本時の困難度査定(予想される生徒のつまずき)
 - ・アクリル板への最初の溝の付け方が不十分で、二重三重の溝が出来てしまいきれいに切断することができない。
 - ・プラスチックカッタの使用した体験がないため、力の加減が難しく溝の深さがうまくほれないため折るときに割れてしまう。

6 本時の指導構想

【説明する】	【理解確認】	【理解深化】
プラスチックカッタを使用しア	プラスチックカッタを使用し	アクリル板をまっすぐきれいに切
クリル板をまっすぐに切断する方	アクリル板の試験片の切断を体	れるように切断方法を身に付け、切
法を実演し説明する。	験させる。	断の習熟をさせる。

<目標に達しない生徒への手だて>

- ・グループでの教え合い活動を通し指導目標の達成をはかる。
- ・プラスチックカッタを使って、アクリル板をまっすぐに切断できるように再度実演を示し支援する。

【自己評価】

プラスチックカッタの使用の仕方を理解させ、アクリル板をまっすぐに切断できたことを振り返させる。

7 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	
	1 プラスチック製品をみせ、いろいろな所に	・身近にあるプラスチック製品を用意し本製作に向	
	プラスチックが使われていることに気づく。	けての動機づけにさせる。	
説明			
	2 学習課題(目標)の設定		
	プラスチックカッタを使って、アクリル板をまっすぐきれいに切断する方法を身につけよう		
1 0			
分	3 プラスチックカッタを使用しアクリル板	・ポイントを押さえ実演をしながら説明する。	
	の直線きりの仕方を説明する。	・安全面についても説明する。	
	4 プラスチックカッタを使いアクリル板の	・グループで協力しながら教え合い学習で切断体験	
理解	試験片を切断する。	させる。	
確認		・切断するときは、安全面に注意させる。	
1 5	5 試験片の切断面を観察し、切断結果を話し 合い発表する。	・切断結果のうまくいかなかった点に注目させ、きれいに切断する方法をまとめさせる。	
分	「ロV・光衣りる。	・ホワイトボードを活用させる。	
		· バンイドが 「で信用でせる。	
理解	6 発表の結果から、きれいに切断する方法を	・プラスチックカッタの使い方を習熟させるため、	
深化	確認し、プラスチックカッタの使い方の習熟	時間を有効に使い切断を行わせる。	
	を図る。		
1 8			
分			
	7 本時を振り返って、学んだことなどを整理		
	し、自分なりに記述しまとめる。		
自己	・初めて使った工具だったが、こんなに簡単に切断できるとは思わなかった。		
評価	・プラスチックカッタを使い半分まで溝を掘り、机の角にあわせて折ることがわかった。		
	・きれいに切断するための力の入れ方が難しかった。		
7	・最初の溝ほりを慎重にやらないと溝が二重になってしまいきれいにいかないことが分かった		
分			
	 8 次時の予告と復習・予習の指示		
		·	